

## 日本大学医学部 N方式(2期) 英語

2024年 3月4日実施

### 【I】

1 ③    2 ②    3 ③    4 ①    5 ④    6 ②

<講評>

文法・語法に関連した4択空所補充。いずれも文法問題として頻出のテーマであり、確実に得点したいところ。

1 must have *done* 「・・・したにちがいない」を選ぶと文意がとおる。cannot have *done* 「・・・したはずがない」だと文意がとおらない。

2 独立分詞構文の形になっている It *having rained all day long* を選ぶと文意がとおる。

3 *those* は前出の *the*+名詞(複数形)を指し、後ろに修飾語句を伴う形で用いるので、*the perspectives of modern artists* となり、文意がとおる。

4 *in case S V ...* 「SがVする場合に備えて」という意味。節内で *should* を用いることはできるが、*will [would]* を用いることはできない。

5 *too ~ to do* 「あまりにも～なので、…できない」という意味。

6 前置詞+関係代名詞を空所に入れると、*they can work remotely with a laptop* を *with which they can work remotely* とした文が完成する。なお、前置詞の後ろに関係代名詞の *that* を用いることはできない。

### 【II】

7 ①    8 ③    9 ②    10 ②    11 ①    12 ③

<講評>

語彙・熟語に関連した4択空所補充。こちらも基本的な出題がほとんど。

7 *lose A* 「(時計が) A (ある時間) 遅れる」という意味。

8 *considerable* 「かなりの」「相当の」という意味。なお、*considerate* 「思いやりのある」という意味。

9 *from scratch* 「最初から」という意味。

10 *command A* 「(家などが) A (景色) を見下ろす」という意味。

11 *effective* 「(法律などが) 有効な」という意味。

12 *a must* 「不可欠のもの」という意味(名詞としての用法)。

### 【III】

13 ②    14 ①    15 ③    16 ④    17 ①    18 ②

<講評>

語彙・熟語に関連した4択空所補充。

13 *count on A* 「Aに頼る」

14 *with a view to A* 「Aのために」Aに動名詞が入った形。

- 15 stand out 「際立つ」  
 16 fill out A 「A を記入する」  
 17 all the same 「それでもやはり」 (頻出)  
 18 on and on 「続けて」

【IV】

- 19 ③      20 ④      21 ② (③も否定しがたい)  
 22 ③      23 ①

<講評>

宇宙探索は人間とロボットのどちらが行うべきかについて論じた英文。問いはすべて、文章中の空所に補うべき語を 4 択から選ぶ形式。空所の前後を局所的に読むだけでも解答可能な問いが多い。

19 直後の動詞 **claim** に 3 単現の **s** がついていないことがヒント。主語が複数形になるはずなので **others** が正解。

20 論理関係を根拠に解く問題。直前の文は「(人間が乗っている) **Space station** は地球から近すぎる」という内容。空所を含む文は「ロボットなら宇宙のより遠くへ行ける」と直前の文と反対の内容が登場しているため、対比を表す **on the other hand** が正解。

21 悪問。②か③か、内容上決定的な根拠はないように思われる。ただ、原文を搜索したところ **spontaneous follow-up tests** とあったため②を正解とした。

22 動詞が **have** なので単数形の扱いを受ける **little** と **a little** は不可。文脈上ロボットができることに限界がある、という内容になるはずなので否定の **few** が正しい。**quite a few** は「かなりたくさん」という意味。

23 **but** という逆接の接続詞があるため、直前の内容と反対の内容が入る。直前には「現在、無人探索の方がコストがかからない」とあるため、それと反対になる「コストが上昇する」という内容にするべき。よって **rise** が正しい。

【V】

- 24 ④      25 ④      26 ③      27 ③      28 ②

<講評>

メディアリテラシーについて述べた英文。語彙的に難しいものはほとんどなく、解答の根拠も求めやすい。

24 第 2 段落最終文の内容が④と合致する。

25 第 3 段落最終文の内容が④と合致する。

26 第 4 段落全体から読み取れる論旨が③と合致する。

27 第 5 段落全体から読み取れる論旨が③と合致する。

28 第 6 段落第 1～3 文の内容が②と合致する。

【VI】

- 29 ④      30 ①      31 ③      32 ②      33 ①

<講評>

「環境に良い」と銘打たれた製品をめぐる 2 人の会話文。こちらも語彙的に難しい部分はほとんどない。

29 Julie の 2 回目の発言で、オーガニック商品は、overpriced and overrated 「異常に高値が付けられて、過大評価されている」とあるので、彼女は「こうした店が売っているものは値段相応の価値がない」と考えていると判断できる。

30 Julie の 3 回目の発言に「オーガニック商品は安全ではない」とあり、それを受けた Lara の 4 回目の発言で、you're missing the point と述べられており、さらにそれに続いて「環境に優しいオーガニックな原材料を使っているのよ」と述べているから、Lara は「Julie はこうした店舗が自然素材を用いる目的を誤解している」と考えたと判断できる。

31 Lara の直前の発言内容で、「自然由来の商品には良くない物もあるかもしれないけれど、だからといってすべてが悪い訳ではないわ。それは一般商品だって同じ」とあるので、「オーガニック商品も一般商品と同様に品質にばらつきがある」が発言の意図であると判断できる。

32 Julie の 5 回目の発言で、a lot of companies are cashing in on consumers wanting to help the planet とあり、この部分をパラフレーズした「会社は消費者の環境志向に乗じていると考えている」が正解だと判断できる。

33 Julie は、会話の間ずっとオーガニック商品に反発しており、最後まで意見を変えていない。Lara の I don't know why you're being so hostile という発言からもそのことが窺える。したがって、Julie が Lara の発言をたびたび遮ったのは「彼女は Lara の発言内容に同意していないから」であると判断できる。

【VII】

- 34 ⑦ (④①③⑦⑤⑥②)      35 ③ (⑤①⑥③⑦②④)  
 36 ① (⑥②⑦①④⑤③)      37 ④ (⑦⑤②④⑥①③)  
 38 ⑥ (③⑤②⑥⑦④①)      39 ① (②⑦④①⑥⑤③)

<講評>

和文つきの語句整序問題。和文が添えられていることもあって難易度は低い。基本構文としてもよく見るものばかりであり、全問正解を目指したい。

【VIII】

- 40 ② (④①②⑤③)      41 ③ (②⑤③①④)  
 42 ③ (④②③⑤①)      43 ① (②⑤①④③)

44 ④ (②⑤④①③)

45 ② (⑤③②①④)

<講評>

絶滅が危惧されている動物について述べた英文。問いはすべて、文章中の空所を語句整序で埋める形式。

【総評】

問題構成・出題形式ともに昨年度と同一であった。医学部 A 方式の廃止以来、分量・難易度ともに大幅に低減しており、引き続き高得点域での戦いとなることが予想される。医学部受験生ならば 80%以上は確保したいところ。

なお、二次での筆記試験では、従来の A 方式に準ずる形の長文問題が 3 本出題されるのが例年のスタイルである。一次通過者は、旧 A 方式の過去問演習をしておくことが有効であろう。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校  
**YMS**

03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>  
東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部進学予備校

**メビオ**

0120-146-156  
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校

**英進館メビオ** 福岡校

0120-192-215  
<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

